

# 新型コロナウイルスによる学術研究への影響及び支援ニーズに関するアンケート結果（概要）

新型コロナウイルス感染症による我が国の学術研究への影響等について、令和2年5月12日～5月19日にかけて、科学官・学術調査官（※）等に対して、学術研究現場の実態に関する5月中旬時点の認識についての自由記述アンケートを行い、主な意見を取りまとめた。

※科学官・学術調査官：文部科学省の非常勤職員として採用している、専門的知見を有する大学等の研究者。

参考資料2-1  
科学技術・学術審議会  
学術分科会（第80回）  
令和2年9月4日

## コロナ禍による即時的影響

### 研究体制の縮小

#### 研究施設への立ち入り制限による影響

- ・ 実験系、フィールドワーク系研究の停止
- ・ 体制縮小による安全管理上の懸念や研究機器のメンテナンス不足
- ・ 実験生物の保守が困難
- ・ 共同利用施設停止等による研究活動全般の停滞

#### 図書館の閉鎖等による影響

- ・ 図書館所蔵資料の閲覧制限により参考文献の参照が困難、論文執筆が進まない
- ・ 自宅等学外からの電子ジャーナルの閲覧ができないことにより先行研究等の整理が困難

#### 地域間移動（海外含む）の制限による影響

- ・ 国内外におけるヒアリング・フィールドワーク、国際共同実験が中断
- ・ 経時比較が必要な研究が困難に
- ・ 極地観察などは数年程度の遅れの可能性

### 経済社会活動のあおり

#### 経済活動の停滞による影響

- ・ 企業からの新規の共同研究の提案が減少
- ・ 企業の業績悪化による産学連携が停滞するおそれ
- ・ 物流の停滞により、実験機材や研究試料が入手困難

#### 大学の事務や行政事務の停滞による影響

- ・ 大学の事務部門の機能が縮小され、発注等が停滞
- ・ 研究費の審査が止まっており、研究計画を立てることができない

#### 接触制限による影響

- ・ 人を対象とした研究の実施が困難

### 地域・領域等による研究格差

- ・ 研究再開時期に大きな地域差
- ・ 研究分野（理論／実証）、性別、家族構成により影響の度合いが異なり、研究の進展に差が出る

### 知見交換の停滞

#### 海外も含む共同研究者等との意見交換への影響

- ・ 共同研究に関わる会議はほぼ延期・中止
- ・ 国際連携・国際共同研究も停滞
- ・ オンライン会議が活発に開催され、共同研究が効率的に行われる素地はできた
- ・ オンラインでは集中した議論やブレインストーミング的な議論、フランクな情報共有は困難
- ・ 国際共同実験グループのオンライン会議は時差があり効率が悪い

#### 学会・シンポジウム等の研究者コミュニティへの影響

- ・ 博士人材等のキャリア形成に重要なアピールの場の激減、モチベーションの喪失
- ・ 既に交流のある研究者同士ならオンラインで対応できるが、対面でこそ可能な人的交流と、現場での対話から生まれる新しい研究創出機会が喪失

### 研究活動の圧迫

#### 教育・事務活動の増大による影響

- ・ オンライン講義・会議への対応等に多くの時間を割かざるを得ず、研究活動が停滞
- ・ 教務・入試・事務等の対応に追われ、研究時間の確保が困難に

#### 家庭環境の変化による影響

- ・ 子どもが通う保育所・学校の休園・休校により、育児の負担が大きくなり、研究時間が減少

#### コロナ対応の優先による影響

- ・ 医療系の研究者は、コロナ関係の提言書作成やエビデンス収集等にエフォートを割くことに

### 研究環境基盤整備のニーズ

- ・ 研究活動の遠隔化・自動化のための設備整備やネットワーク環境整備のニーズ
- ・ 今後の研究活動における感染拡大防止のための経費のニーズ

## 研究活動の停滞等による中期的課題

### 研究評価の公平性

- ・ 競争的研究費の審査、任期付き研究員や研究機関の実績評価等において、コロナ禍の影響を考慮することへのニーズ
- ・ 高インパクトジャーナルの論文掲載がコロナ関連に偏っており、今後の人事・研究費獲得に影響

### 研究費運用の柔軟化ニーズ

- ・ 研究費執行の年度繰越の一層の柔軟化
- ・ 研究課題の変更、研究期間の延長等の既存ルールにとらわれない柔軟な運用
- ・ 一度止めた研究は、その復旧に時間がかかるため、実際の研究停止期間に加え、数ヶ月のブランクが生じることに留意が必要
- ・ 季節の制約がある研究等への柔軟な対応
- ・ 余剰旅費の簡便な手続での返還や他の用途への流用の許可
- ・ 共同利用設備の運用停止に伴う代替手段への支出等本来支出が予定されていなかった経費への支援
- ・ これを機に、科研費の基金化の一層の促進ができないか

### 次の緊急事態への備え

- ・ 予備費の拡充や速やかな支援金支給のための仕組みが必要

### 研究人材の育成

- ・ 学生・若手研究者への実験技術の継承など、研究教育の停滞
- ・ 学生の学位取得・就職への影響は大きく、柔軟化とともに修了が遅れても社会として支えるという雰囲気醸成が必要
- ・ 留学生の受け入れがゼロになるなど、グローバルな人材交流が停滞
- ・ 授業料減免や生活費支援等の学生への経済的支援が必要
- ・ 学生・研究者のモチベーション低下、メンタルヘルスが心配

### 学術界の人間社会における価値

- ・ コロナ禍において人間社会をトータルにみるというところに学術は貢献できたか
- ・ 人文科学の重要性の再認識が必要ではないか
- ・ コロナ関係研究への投資の増加により、他分野の基礎研究予算の削減を懸念
- ・ 他分野の研究者による質の低い研究成果の発表が社会的な影響を及ぼしてしまう現代においては、新しい形の研究倫理が必要

### 知のデータベース化

- ・ 学術論文・図書のデータインフラ利用拡大に向けた体制整備のための支援が必要
- ・ 学問的資料のデジタル化推進のための支援が必要